

平成29年度

# 自己評価委員会報告書

於：平成29年7月～平成30年2月

学校法人長野県理容美容学園

長野理容美容専門学校

## 平成29年度 第1回 自己評価委員会報告書

日 時：平成29年 7月 6日（木） 10：30～12：30

場 所：松本理容美容専門学校 校長室

出席者名：(学園) 長尾理事長・嶋村副理事長・吉川事務局長・桐山就職部主任

(学校) 松林校長・柏原教務主任

長尾理事長挨拶

自己評価委員会にご協力頂き感謝しています。先日の就職ガイダンスにおいて、どこのサロンも人材不足である事を感じた。それには、安定した業界になるように努力してもらい、高校生に興味を持ってもらう事、その結果は、必然的に学生獲得へと繋がっていくと思う。

各専門学校の学生獲得が凄まじいものである。両校とも常に前向きな発想を持って、それを具体的にやるチャンスを掴んでいくことが必要である。

規制緩和が進む中で安閑としていられない現状であることをわかっていなくてはならない。

### 【審議検討事項】

1. 平成28年度自己点検・自己評価について

・27年度中退学者が多い部分の改善として、28年度自己評価課題と考え実施してきた。

28年度自己点検・自己評価報告書の小項目ごとに説明（資料参照）

・課題となった項目として、評価結果3以下について

① 学校運営 ②教育活動 ③学修成果 ④法令等の遵守 ⑤社会貢献・地域貢献

上記の項目について、改善した部分・課題として残った部分の説明を行った。

・29年度重点目標について

① 学修成果・・・中退学者を出さない学校づくりを軸としていく。職員一丸となってメンタル面の対応。卒業生と在校生との協力体制づくり

② 教育活動・・・即戦力となりうる人材育成を行っていくためのカリキュラムを作成していく。

③ 学生の募集と受け入れ・・・

真実性・明瞭性・公平性に基づいて各科の相違についてのマニュアル作りが必要である。

学費の説明を今まで以上に詳細にして十分な理解と費用準備をしてもらう。

各種イベントについて、HP上での告知を工夫しながら本校の魅力を伝えていく。

中間報告として、現時点で29年度重点目標の実施状況の報告

今後、30年2月までに安定した項目評価にしていきたい。

・自己評価HP更新について・・・28年度分、財務も含めて7月中に更新していく。

2. 学校関係者評価委員・教育課程編成委員選出について（別紙参照）

別紙の通り、委員を決定。今後、選任理由を付け加えて申請していく予定である。

任期は3年。

### 3. 今後の予定

- ・学校関係者委員会（9月下旬）
  - ・教育課程編成委員会（10・11月実施予定）
- \*日程については、今後検討し決定していく。

職業実践専門課程の目的に沿って、別紙のスケジュールを進めていく。

平成32年3月文部科学大臣認定に向けて、自己評価委員会・学校関係者評価委員会・教育編成委員会を開催していく予定。加えて、実績のために職員研修を随時行っていく。

認定後も、毎年更新していく必要がある。

### 4. 職業実践専門課程教科選択について

- ・メイク 株式会社アリミノ
- ・ネイル 株式会社滝川
- ・カラー SORA HAIR MAKE

### 5. 嶋村副理事長挨拶

自己点検・自己評価について、主観的と客観的、あるいは主対的と相対的と相反する捉え方があり難しいと思う。また、この学校評価が閲覧するためのものか、認可を受けるためにするものか、そうではなく学園がより良くなるための評価というのが本質であると思う。こうした観点で進めていってほしい。

### 6. 次回自己評価委員会 平成30年2月実施（日程については今後検討）

## 平成29年度 第2回 自己評価委員会報告書

日 時：平成30年 2月 8日（木） 13：00～15：00

場 所：松本理容美容専門学校 校長室

出席者名：(学園) 長尾理事長・嶋村副理事長・吉川事務局長・桐山広報企画部部長  
(学校) 松林校長・柏原教務主任

長尾理事長挨拶

自己評価委員会の場は、自己の反省をふまえ、両校教育をより一層向上することのできる良い機会になっていると感じている。今後も引き続き、内容の濃い会にしてほしい。

百瀬校長より

両校合同で、自己評価を行う事は、同じ観点の元で、教育内容等を見直しすることが出来て良かった。職業実践専門課程認定に向けて、前向きな意見交換のできる場としていきたい。

### 【審議検討事項】

#### 1. 平成29年度自己点検・自己評価について（資料①参照）

29年度報告として、7月自己評価委員会において中間報告した項目に加え、3から4に評価改善された項目と、全項目の周知すべき点の報告を行った。

**(基準1)** **総括**：「あなたが誰かの夢になる」をキャッチコピーに掲げ、職業人として社会・業界に貢献できる心豊かな人材の育成を進めている。

- ・産学連携を具現化するために、職業実践専門課程認定に向けて取り組みを始めている。学校関係者委員会・教育課程編成委員会からの提案も含め、より実践的なカリキュラムの作成。

#### **(基準2)**

- ・30年度からの実施に向けて、学生証のカード化。学則等の便覧化など準備を整えた。
- ・新人2名採用のためと、30年度実施予定の新カリキュラム導入に向けて、教職員の指導・実務スキル向上のための研修を実施した。
- ・運営方針の浸透と情報共有のため、全職員による会議の実施。学生情報の共有と指導の統一、業務改善に取り組んでいる。また、ケースによって緊急会議を開き、対応している。

**(基準3)** **総括**：職業実践専門課程を取得する取り組みとして、5科目の産学連携授業を開始した。

- \*評価3の項目については、職業実践専門課程に向けて移行期間のため、不足部分を補うための対策を検討し、実施していく。
- ・幅広い教養や社会人基礎力の養成する目標達成するため、卒業生・在校生対象のアンケート体制が整っていないため、現場に沿った教育の実施に向け、今後、情報収集を行っていく。
- ・各教科の講師・教員によって、指導方法の違いがある。統一化に向け、講師と打ち合わせ中である。
- ・授業評価のアンケート調査を、学科全体として体系的かつ計画的に実施。学生のニーズに応える教育環境の実現のため、評価体制を引き続き行っていく。

(基準4) **総括**: 社会的基礎力などで、「教養」「人間力」等現状としては、基礎知識や一般的なマナー常識などの点で不十分であり、そうした分野において、継続して養成に努める必要がある

- ・入学生の基礎学力・意欲または経済力に差が多いが、きめ細やかな指導・協力体制により、今年度は退学2名・休学2名と前年度と比較し減少。今後も引き続き、教育内容の充実と教員の細やかな指導を行っていく。

#### (基準5)

- ・学校支援サロンに対し、就労条件向上のための就職セミナーを定期的に開催していく。  
業界の魅力向上するために、業界と学校が協力し、業界全体の就労条件が向上し本校卒業生が安心して働ける環境づくり。高校生から魅力ある興味を持ってもらえる職種にするために、就職セミナーを開催し、啓蒙活動を行っている。
- ・平成30年度からの授業カリキュラム編成において、サロンで活躍中の卒業生を講師として授業を担当する機会を計画している。

(基準6) 継続して、問題なく実施できている。

- ・緊急時の対応の強化として、防災訓練の実施。Jアラートの周知徹底を行い、悪天候などの情報を素早く収集し対応することが出来ている。防災用品を準備し、専用の倉庫を完備した。

(基準7) **総括**: 今後より一層、学生募集状況は厳しくなると考えている。本学園独自の魅力を伝え（国家試験合格率100%・就職内定率100%・全国規模のコンテストでの好成績・教育内容の充実・支援サロンとの協力体制等）選んでもらえる学校をPRしていく必要がある。

- ・理容科の魅力向上のために、支援サロンの先生方からサロン技術指導の授業を実施している。  
理容科支援サロンとの協力体制完備。定期的に懇談会を開催し、意見交換を行っている。
- ・学園HPの充実化の必要性。今後、SNSの普及に合わせたシステム強化をしていく必要がある。  
SNS・Instagram導入検討資料を取り寄せ、業者と打ち合わせを行っている。今後前向きに検討していき導入につなげていく。

(基準8) 継続して、問題なく実施できている。

(基準9) 3月31日付け報告書を、3月理事会にて承認後、学園HPにて公開していく。

#### (基準10)

- ・年1回本校において献血、例年より多い在校生の約4分の1程度の協力者がいる。高齢化社会における高齢者の特徴  
を学習したうえで、社会福祉施設で高齢者対象の美容ボランティアを年3回実施。  
地元イベントに積極的に参加し、学生にとっても良い学びの場となっている。継続して実施していく。

## 2. 重点目標について（別紙1・2参照）

○29年度実施報告

① 学修成果 ②教育活動 ③学生募集と受け入れ

3月31日時点で29年度重点目標の実施状況の報告

30年度も引き続き、重点目標を中心に向上していく努力をしていく。

○30年度目標課題

① 教育活動 ②学修成果 ③学生募集と就職

29年度重点目標を軸に、各重点目標項目に具体的目標を追加した。

本年度以上に学校教育の質向上のため、職員全員で努力をしていきたい。

1) 整理・整頓・挨拶・礼儀を身につけさせる。

即戦力となる人材育成のため、技術のみでなく、マナー礼儀を身に付けさせる。

2) 教職員の統一指導と技術向上を目指す。

3) 一人ひとりの学生の向上心を高める。

4) 在校生の満足度の向上。

3. 学校関係者委員会の報告（別紙3）

・県内の業界発展のためにも、地元サロンとの協力体制を強化し、県外流出を防ぎ、学生獲得につなげてほしい。今後、サロンで活躍している卒業を上手に活用していく。

・離職率の低下を図るためにも、柔軟に対応できる能力・コミュニケーション力を高めるための教育を充実させてほしい。学校支援サロンを上手く活用できるよう、方策を検討していく。

・学校の取り組みについては、質の高い教育を実施出来ているので、評価している。

以上が、学校関係者評価委員会にて検討した事項の報告

4. 嶋村副理事長挨拶

常に、学校を維持していくための努力は惜しまないでほしい。

自己点検・自己評価の結果を出していく難しさがある。時に評価に対して、個人の甘辛が出やすい。特に教育活動については、評価基準を上げる努力を惜しまず、課題を浮き彫りにし、どのように改善していくのかを考え、具体的に結果を出していく。今回の評価で終わらず、毎回繰り返すごとに、クオリティを上げていく必要がある。学校として、良いPDCAサイクルに従って、引き続き良い意見・知恵を出し合ってもらいたい。

5. 次回自己評価委員会

日 程：平成30年7月4日（水） 10時30分より

場 所：長野理容美容専門学校 校長室

平成29年度

# 学校関係者評価委員会報告書

於：平成29年9月～平成30年2月

学校法人長野県理容美容学園  
長野理容美容専門学校

# 第1回学校関係者評価委員会 報告書

日時：平成29年9月 8日（金）10：30～12：30

場所：長野理容美容専門学校 校長室

出席者：(有)アルファ代表取締役 杉山 一真先生

(有)早川美容商事サロン企画部マネージャー 早川 芳弘先生

松林校長・吉川事務局長・柏原教務主任・桐山広報企画部長

理事長より

外部の方に自己評価してもらうための会議である。文部科学省認可の職業実践専門課程取得を松本校31年・長野校32年を目安にしている。学生達とサロンが近くなり、サロン入社後、役立つ即戦力を身につけさせたいと考えている。5年前サロン周りからスタートし、今回に繋がっている。先生方にご理解・ご協力頂き、感謝している。

## 【議題】

1. 評価委員・評価委員会業務の概要と説明（別紙1）を行った。

2. 28年度自己評価点検・自己評価について（資料1）

①基準項目（10項目）並びに点検中項目（37項目）の報告・説明・確認を行った。

②28年度重点目標

・実施報告・課題の説明

1) 学校運営

・学園としての教育理念は確率しているが、教職員と学生がより一層統一した認識として両校統一のキャッチコピーを決定した。

「あなたが誰かの夢になる」

《実施報告・課題》

・学校として同じ考えの元、学生指導・教育内容の向上を目指していく。

2) 教育活動

・各学科の教育目標が業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられていない

・授業シラバスの統一化

・社会人教育の充実

・学生へのアンケートの実施

《実施報告・課題》

・ヘアカラー協会との連携によるヘアカラー資格が取得できる体制を整えている。

現状の色彩検定からパーソナルカラー検定へ教科内容の見直しを行っている。嘱託講師との連携を高め、各教科のシラバス作成に着手している。

・30年度より単位制導入するため、実習授業においても、教科ごとのシラバスを作成して指導方法の統一に着手している。

・学生へのアンケート結果を、合同打ち合わせ会時に講師の先生方に共通理解してもらうために公表している。

3) 学修成果

・資格取得について国家試験合格率・エステティック資格取得率100%を維持し続けられる様、教育内容を向上させていく。



- ・任意での資格取得の合格率について、意欲的に学習させ合格率向上を目指す。

《実施報告・課題》

- ・高い資格取得率を維持していけるよう、新たな対策で改善を図っている。
- ・27年度は中退学者が多かったが、クラス担任制・学年別行事・個人面談等を実施し、学習意欲の維持、向上及び早い段階のメンタルケアにより、28年度中退学者数は減少した。29年度も引き続き実施していく。

4) 学生支援

- ・社会人基礎力を身につけるためのキャリア教育の導入の必要性
- ・経済的・進路・学業などの悩みへの対応の難しさ
- ・就職後のフォローアップ体制の強化

《実施報告・課題》

- ・悩みのある学生に対する指導として、担任とスクールカウンセラーとの連携で解決に導いている。
- ・就職部として、クラス担任と連携し充実した就職活動支援を行なっている。しかし中途退職率については課題があるため、今後学校支援サロンと協力をし、低減を図っていく。
- ・卒業生の再就職支援についてフォローアップする体制は整っている。内定時に労働条件通知書を提出してもらっている。今後も継続していく。

5) 教育環境

- ・インターンシップについて、学外学習として実施後の評価内容・改善点など評価表の充実を図る。
- ・防災関連の各種備品の点検と必需品の購入

《実施報告・課題》

- ・学外学習・実務実習については、学生の意欲も高く、学習の動機付けとして効果が出てきている。学校支援サロンの協力体制も整い、高い評価を得ることが出来ている。サロンからのアンケートを上手に活用し、教育効果を確認出来ている。
- ・緊急時の一斉メール配信システムの導入
- ・防災対策として、年1から2回防災訓練の実施。学校の防災対策組織を完備し、防災設備の定期点検・下校時の担当者による点検、学内の事故に備えて学生災害傷害保険に加入。

6) 学生の募集と受け入れ

- ・募集活動は真実性・明瞭性・公平性に行なっているが、各科の具体的相違説明に不足を感じ、今後マニュアル化が必要である。
- ・オープンキャンパス・学園記念日などで卒業生の活用。HPも活用し卒業生から高校生に向けたメッセージなど工夫をしていく

《実施報告・課題》

- ・オープンキャンパスにおけるイベント企画として、クリスマスイベントを行った。通常の実習体験に加え、在校生主催のビンゴゲームやクリスマスの飾りつけ等。参加した来校者に楽しんで頂ける機会となった。保護者向けの説明会も開催。
- ・学科ごとに特徴を掴んだ、明確で説明する側の統一できるものを作成した。進路ガイダンスマニュアルの作成。
- ・ビューティビジネス科の新しい魅力発信のため、新カリキュラムを導入した。
- ・各科独自のチラシを作成し、オープンキャンパス・進路ガイダンス時に配布し説明を

行っている。

※今後、卒業生の活用方法も含め、引き続き学生募集に重点をおき行っていく。

#### 7) 法令等の遵守

- ・職業実践専門課程認可への取組
- ・自己評価報告書のホームページ上公開

《実施報告・課題》

- ・認定取得に向けて、各認定要件に取り組み始めた
- ・29年8月末に、28年度の自己評価並びに基本情報をホームページに掲載した

#### 8) 社会貢献・地域貢献

- ・環境問題・高齢化などの社会問題についての教育内容の充実
- ・高齢者・清掃・献血ボランティア等、校外活動の充実

《実施報告・課題》

- ・社会福祉学の授業を中心に、美化・清掃など身近な問題から薬物問題まで、生活習慣倫理観について啓蒙活動を行なっている。
- ・年1回献血の実施。高齢化社会の学びを通じて、社会福祉施設で高齢者対象の美容ボランティアを年3回実施。校外の清掃を実施している。今後も引き続き、近隣の方々との理解を得るための活動を増やしていきたい。

### 3. 第1回自己評価委員会報告について（資料2）

#### ①改善点について、詳しく説明を行った。

《課題》

- ・基準3 教育活動の評価については、ほぼ適切3であるが、今後継続的に具体的施策を行っていく。評価3の部分改善していかなくてはならないが、30年度より単位制になることで改善できる部分のため、29年度においては現状維持のまま、実施していく。
- ・基準4 学修成果 退学率の低減が図られているかの評価が4から3になった点について精神面での理由で、退学者が出ている事についているため、今後、早い段階でのメンタルケアに努めていき、改善につなげていく。
- ・その他の点については、改善された。
- ・職業実践専門課程教科選択担当講師の確認  
メイク：株式会社アリミノ ・ネイル：株式会社滝川  
カラー：SORA HAIRMAKE カット：(株)gra  
\*パーソナルカラーについては、今後確認し検討していく。

#### ②29年度重点目標について

- 1) 重点目標Ⅰ 学修成果
- 2) 重点目標Ⅱ 教育活動
- 3) 学生の募集と受け入れ

※上記3点について、重要であることは、教職員の指導力向上を図る事である。それにより、授業内容の充実を図ることが出来ると思う。また、中退学者を出さない学校づくりを軸とし職員一丸となってメンタル面の対応。卒業生と在校生との協力体制づくり。その他として、学生の経済的側面に対する支援体制の整備においても、検討していく必要がある。

30年2月開催予定の会議にて、29年度の重点目標の実施状況を報告する。安定した項目評価にしていく。

#### 4. 学校関係者委員より今後の課題

- ・美容系職業の理解を深めてもらうために、保護者説明会の充実が必要なのは。
- ・県外流出を防ぐために、本校は地元サロンとの強い協力体制がある学校をもっとPRしていくべき。県外サロンで活躍している卒業生を上手に活用していく。
- ・県外サロンに就職できないと思わせないために、東京就職組を上手に活用すれば良い。
- ・校内技術競技会等で、地元の美容サロンを審査員として呼んでみたらどうか。
- ・卒業式・入学式に内定先サロンにも案内を出し、列席してもらうことで、保護者にも好印象になるのでは。
- ・業界の声として、考える力が弱くなってきている。発想力の乏しい学生が多いように感じる。学校の授業カリキュラムに自己啓発・発想力・考える力を養える内容を導入していった方が良い。
- ・コミュニケーション力の希薄・横のつながりは大切にできるが、上下関係が上手く出来なくなっている。プレゼン力も強化する必要がある。
- ・コミュニケーション授業時に、学校支援サロンを参加させ、学生と一緒にグループワークを実施しても良いのでは。
- ・HP時にスピーチをし人前で話すトレーニングが必要。
- ・放課後に、地元サロンに複数参加してもらい、サロンPRではなく美容師の魅力を伝える会を開催しても良いのでは。

#### 《学校として》

- ・サロン側も今の学生の現状をもっと学んでほしい。サロンと学校の話し合いの機会を作っていくべき。
- ・今後提案して頂いた意見を元に学校として前向きに検討していき、29年度の学校評価内容がより良いものにしていきたい。

#### 5. 施設見学

#### 6. 次回予定

第2回学校関係者評価委員会 平成30年2月22日(木) 10:30～

## 第2回学校関係者評価委員会 報告書

日時：平成30年2月22日（木）14：00～17：00

場所：長野理容美容専門学校 校長室

出席者：（有）アルファ代表取締役 杉山 一真先生

（有）早川美容商事サロン企画マネージャー 早川 芳弘先生

松林校長・吉川事務局長・柏原教務主任・桐山広報企画部長

○松林校長より

2月8日自己評価委員会にて、29年度報告は終了しています。本日は自己評価の報告と来年度に向けて、より良く向上していける様に、忌憚ないご意見を頂きたいです。

### 【議題】

#### 1.平成29年度第1回自己評価委員会報告

##### ①平成29年度自己評価・自己点検中間報告について（資料1）

- ・28年度自己評価結果評価3の部分を改善し、より良い内容にしていくため、自己評価・自己点検を行っている。今後も引き続き、繰り返し自己評価・自己点検を実施していく必要がある。
- ・評価3から4に変更した部分を説明、報告を行った。

**（基準1）** 総括：「あなたが誰かの夢になる」をキャッチコピーに掲げ、職業人として社会・業界に貢献できる心豊かな人材の育成を進めている。

- ・産学連携を具現化するために、職業実践専門課程認定に向けて取り組みを始めている。学校関係者委員会・教育課程編成委員会からの提案も含め、より実践的なカリキュラムの作成。

#### **（基準2）**

- ・30年度からの実施に向けて、学生証のカード化。学則等の便覧化など準備を整えた。
- ・人材育成と30年度実施予定の新カリキュラム導入に向けて、教職員の指導・実務スキル向上のための研修を実施した。
- ・運営方針の浸透と情報共有のため、全職員による会議の実施。学生情報の共有と指導の統一、業務改善に取り組んでいる。また、ケースによって緊急会議を開き、対応している。

**（基準3）** 総括：職業実践専門課程を取得する取り組みとして、5科目の産学連携授業を開始した。

- \*評価3の項目については、職業実践専門課程に向けて移行期間のため、不足部分を補うための対策を検討し、実施していく。
- ・卒業生・在校生対象のアンケート体制が整っていないため、現場に沿った教育の実施に向け、今後、情報収集を行っていく。
- ・各教科の講師・教員によって、指導方法の違いがある。統一化に向け、講師と打ち合わせ中である。
- ・授業評価のアンケート調査を、学科全体として体系的かつ計画的に実施。学生のニーズに応える教育環境の実現のため、評価体制を引き続き行っていく。

(基準4) 総括：社会的基礎力などで、「教養」「人間力」等現状としては、基礎知識や一般的なマナー常識などの点で不十分であり、そうした分野において、継続して養成に努める必要がある

- ・入学生の基礎学力・意欲または経済力に差が多いが、きめ細やかな指導・協力体制により、今年度は退学1名・休学2名と前年度と比較し減少。今後も引き続き、教育内容の充実と教員の細やかな指導を行っていく。

#### (基準5)

- ・学校支援サロンに対し、就労条件向上のための就職セミナーを定期的を開催していく。  
業界の魅力向上するために、業界と学校が協力し、業界全体の就労条件が向上し本校卒業生が安心して働ける環境づくり。高校生から魅力ある興味を持ってもらえる職種にするために、就職セミナーを開催し、啓蒙活動を行っている。
- ・平成30年度からの授業カリキュラム編成において、サロンで活躍中の卒業生を講師として授業を担当する機会を計画している。

(基準6) 継続して、問題なく実施できている。

- ・緊急時の対応の強化として、防災訓練の実施。Jアラートの周知徹底を行い、悪天候などの情報を素早く収集し対応することが出来ている。防災用品を準備し、専用の倉庫を完備した。

(基準7) 総括：今後より一層、学生募集状況は厳しくなると考えている。本学園独自の魅力を伝え（国家試験合格率100%・就職内定率100%・全国規模のコンテストでの好成績・教育内容の充実・支援サロンとの協力体制等）選んでもらえる学校をPRしていく必要がある。

- ・学園HPの充実化の必要性。今後、SNSの普及に合わせたシステム強化をしていく必要がある。  
SNS・Instagram導入検討資料を取り寄せ、業者と打ち合わせを行っている。今後前向きに検討していき導入につなげていく。

(基準8) 継続して、問題なく実施できている。

(基準9) 3月31日付け報告書を、3月理事会にて承認後、学園HPにて公開していく。

#### (基準10)

- ・年1回本校において献血、例年より多い在校生の約4分の1程度の協力者がいる。高齢化社会における高齢者の特徴を学習したうえで、社会福祉施設で高齢者対象の美容ボランティアを年3回実施。  
地元イベントに積極的に参加し、学生にとっても良い学びの場となっている。継続して実施していく。

#### ②重点目標中間報告について（別紙1）

- ・重点項目において、もっと強化していく必要がある項目について重点目標として実施してきた。

○29年度実施報告

#### ① 学修成果 ②教育活動 ③学生募集と受け入れ

3月31日時点で29年度重点目標の実施状況の報告

30年度も引き続き、重点目標を中心に向上していく努力をしていく。

## ○30年度目標課題

### ② 教育活動 ②学修成果 ③学生募集と就職

29年度重点目標を軸に、各重点目標項目に具体的目標を追加した。

本年度以上に学校教育の質向上のため、職員全員で努力をしていきたい。

5) 整理・整頓・挨拶・礼儀を身につけさせる。

即戦力となる人材育成のため、技術のみでなく、マナー礼儀を身に付けさせる。

6) 教職員の統一指導と技術向上を目指す。

7) 一人ひとりの学生の向上心を高める。

8) 在校生の満足度の向上。

## 2. 学校関係者評価委員より提言

### ○各項目・重点目標について

(杉山先生より)

- ・学生募集の観点から、もっと学校の魅力を発信するためにも、地元のイベントに積極的に参加してほしい。地元の文化となるように、あきらめずに継続していくべきである。ナガコレを利用して頂き、美容業界の仕事の魅力発信をしていく必要がある。
- ・地元サロンをもっと上手に活用すべきでは。ロコミの力は大きいので、美容業を目指すならナガビがいいと伝えてもらえる関係づくりを強化していった方が良い。効果はすぐに出ないが、地道な活動が必要である。
- ・卒業生の活用方法として、若手美容師に加えて、ベテランのオーナークラスも同時に講習会に呼んだ方が良いのでは。長年業界で活躍してきている経験談を聞くことにより、自分の目指した美容業の素晴らしさ・将来性・長く持続する事等、学びとる事も必要。学校支援サロンも今まで以上にもっと大切に上手に扱っていくべき。
- ・本校の教育・資格取得率の軸はぶれる必要はない。伝統校としての誇りは守るべきである。ネガティブ要因よりポジティブ要因をPR。本校卒業生から現場の素晴らしさを伝える場を今以上に増やして行ってほしい。

(早川先生より)

- ・高校生の獲得方法として、資生堂美容専門学校で広報担当者が、定員割れした状況を向上させた方がいるので、コツなど教えてもらえるかも。今後、桐山と打ち合わせの機会を設けて頂けるとの事。
- ・行政を上手に活用していく必要があるのでは。学生が参加するイベントをもっと開催していくべき。地元名産を利用し美容学校としてのイベントを開催することにより、学校の魅力を多くの方に周知してもらえるのでは。結果、学生募集に繋がる機会となるのでは。  
→学校として、授業カリキュラムとの兼ね合い・保護者との兼ね合いを考え、難しい部分もあるが今後、学生募集がより一層難しくなってくるので、前向きに検討していきたい。
- ・学校として、どのような先生・生徒になってほしいのかを明確にすることが大切なのは。  
→学校のキャッチコピー「あなたが誰かの夢になる」を主軸とし、学校全体で同じ目標に向かっていくことが出来ている。今後、各個人力を活かし、得意分野を任せて責任を持たせ、やりがいを持たせること。分配してみると結果に繋がっていくのでは。また、組織なので、報告・連絡・相談は必須である。
- ・「幅広い教養」として、他業種の講話を導入してみたらどうか。美容系の講話のみでなく、コミュニケーション力・接客力を向上していける内容。リッツカールトン勤務していた高野先生を講師にしてみたらどうか。今後、両校で検討していきたい。

○新入社員にのぞむ業界からの意見

- ・サロンに入社し役立つ人材とは・・・笑顔がつかれる・プレゼン力・会話力が1番大切である。可能ならば、週に1回でも良いので、スピーチする授業を導入してみたらどうか。お客様からほめられる存在になることが、大切である。
- ・競争力が大切な業界である。トップクラスは1割でよいので、作り出し、お互いに競い合い向上しあえる学校にしてほしい。コンテスターを上手に活用すべきである。
- ・努力し続けられる人。1つの目標実現に向かって、継続することが出来る人。

3. 次回予定

30年度第1回学校関係者評価委員会 平成30年8月 8日(水) 10:30～